

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 7 月 1 日 9:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 36,500～42,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～43,000 ドル
(S&P500) 4700～6250

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 20,000～23,000
(ナスダック総合) 18,000～20,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～100.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

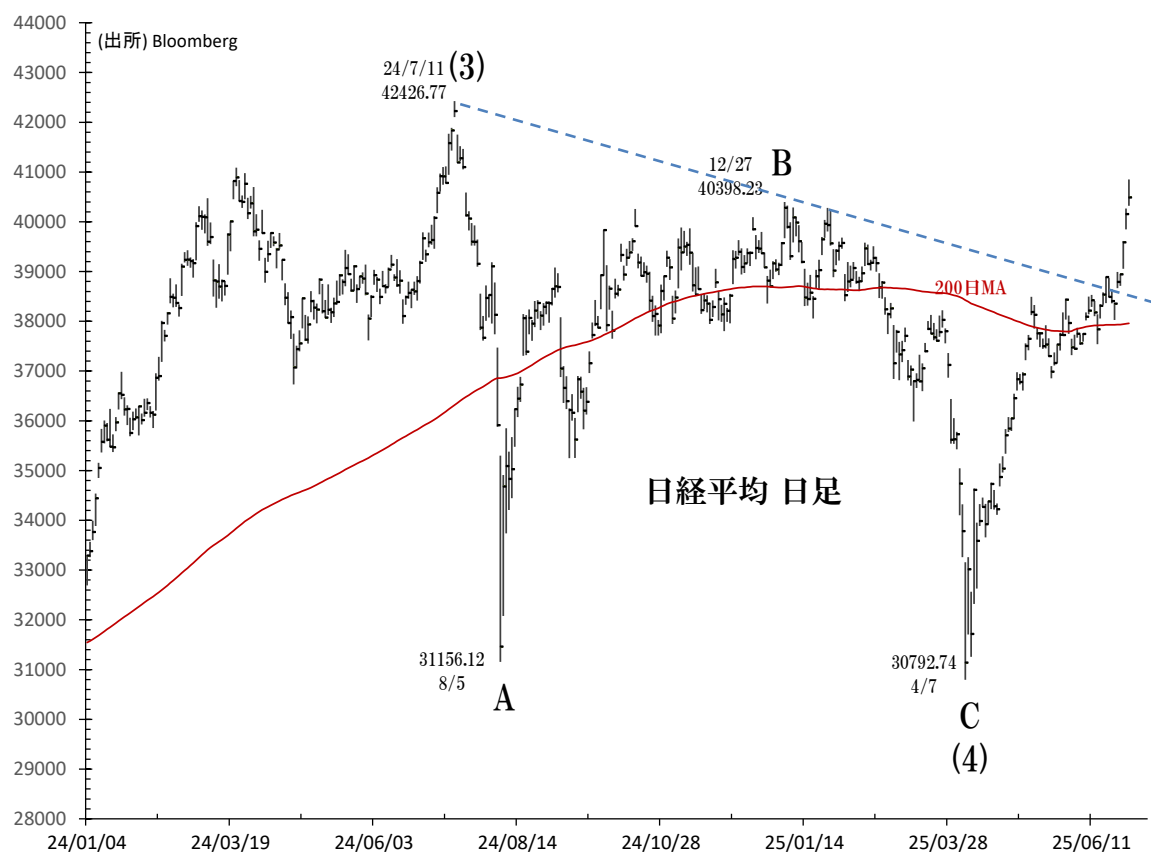
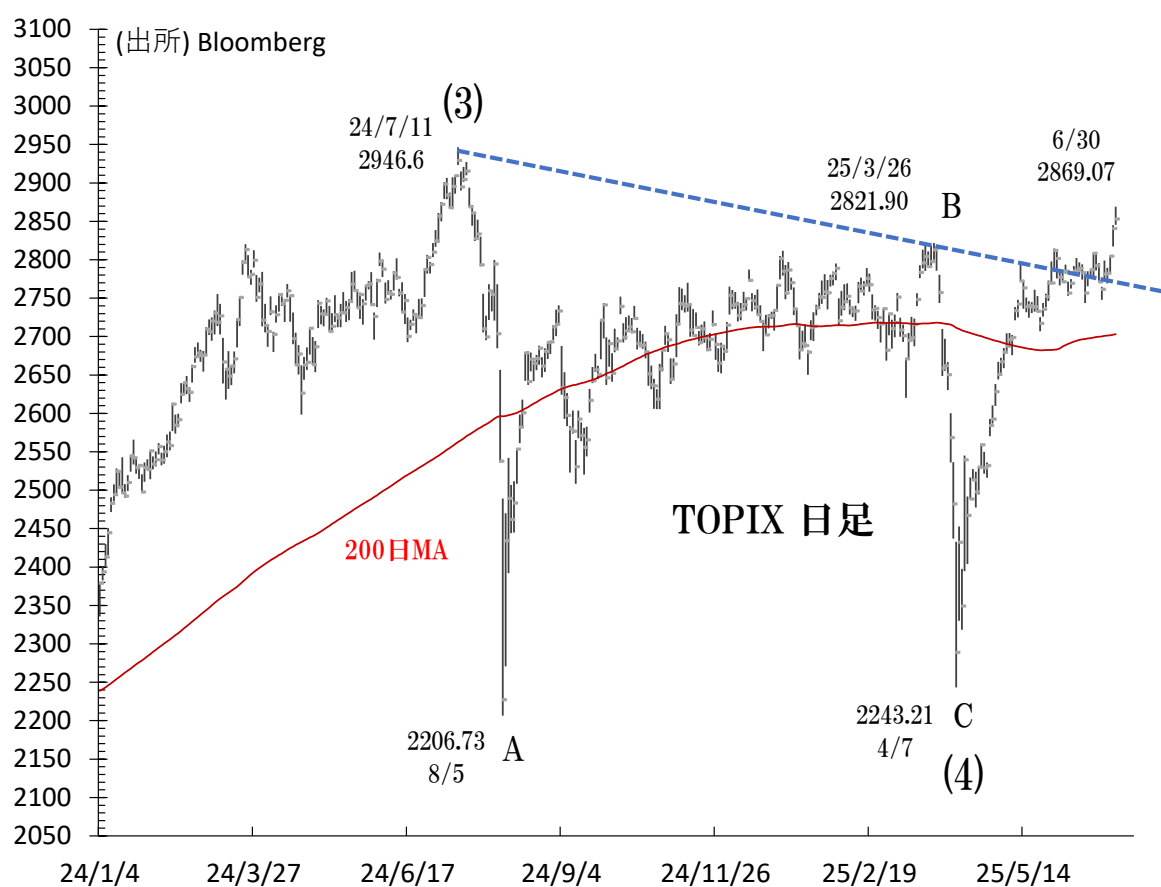
日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

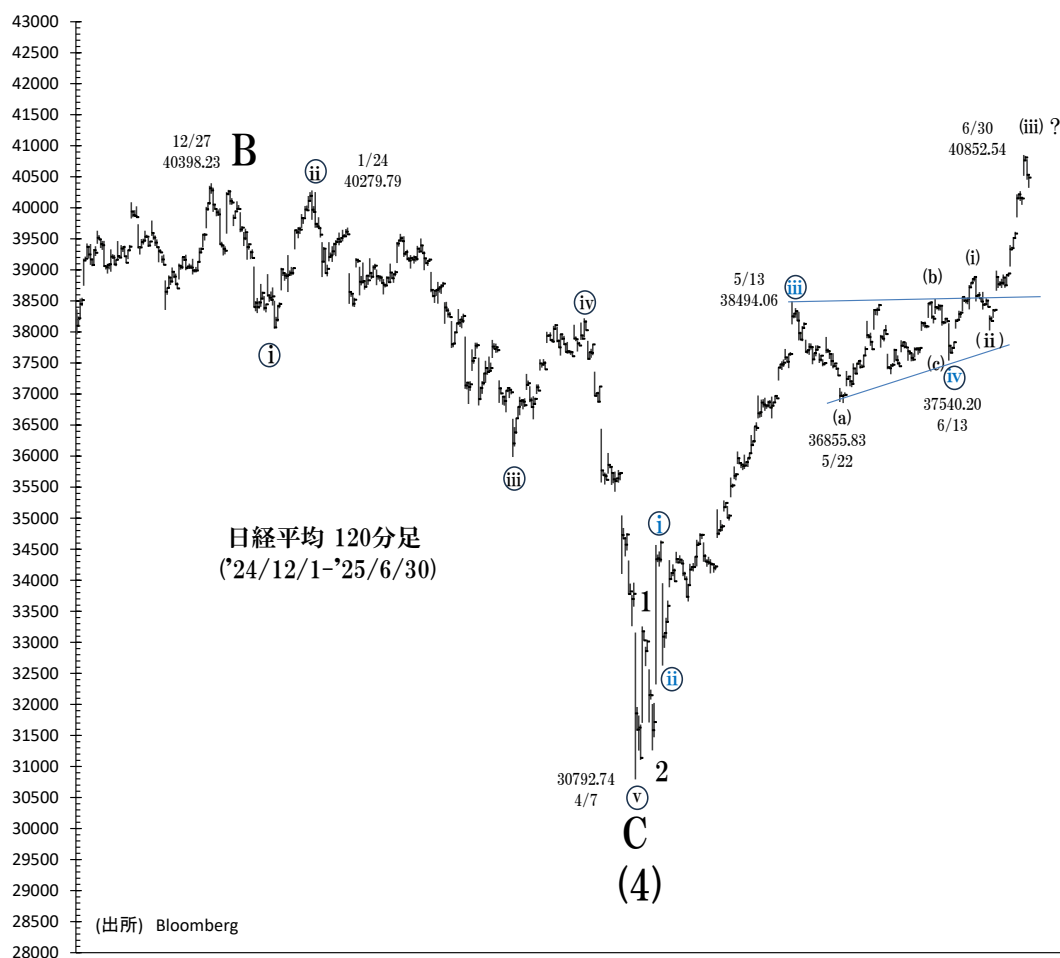
日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇が進行中です。この第(5)波は、20 年 3 月コロナショック底(16358.19 円)からのラリー中「最後の上昇」に相当します。

早ければ 7 月から 8 月にかけて、日経平均は 24 年 7 月高値(42,426.77 円)を上抜き史上最高値を更新するでしょう。

ちなみに第(5)波の始点(4 月 7 日)からの比較では、以下の 7 業種が TOPIX をアウトパフォームしています(TOPIX-17 業種が対象)。①機械、②銀行、③電機・精密、④鉄鋼・非鉄、⑤情報通信・サービス他、⑥金融(除く銀行)、⑦商社・卸売。

上昇トレンド第 5 波では物色範囲が狭まる傾向があります。直近まで好調だった業種・銘柄はさらに上がりやすく、これら上位業種の顔ぶれは第(5)波が続く中で大きく変わらないでしょう。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

[TOPIX]

6月30日に約1年ぶり高値(2809)を付けました。足元、ドル建てTOPIXは35年ぶり高値に達し(6月30日は19.80ドル)、89年12月高値(20.23ドル)まで残り2.2%に迫っています。海外投資家は現物を12週連続で買い越していますが、それは「日本株を持たざるリスク」の表れかもしれません。

足元でスモール指数は史上最高値を付けており、TOPIXもキャッチアップする展開を予想します。いよいよ24年7月の過去最高値(2946.60)試しが視野に入ってきました。

[日経平均]

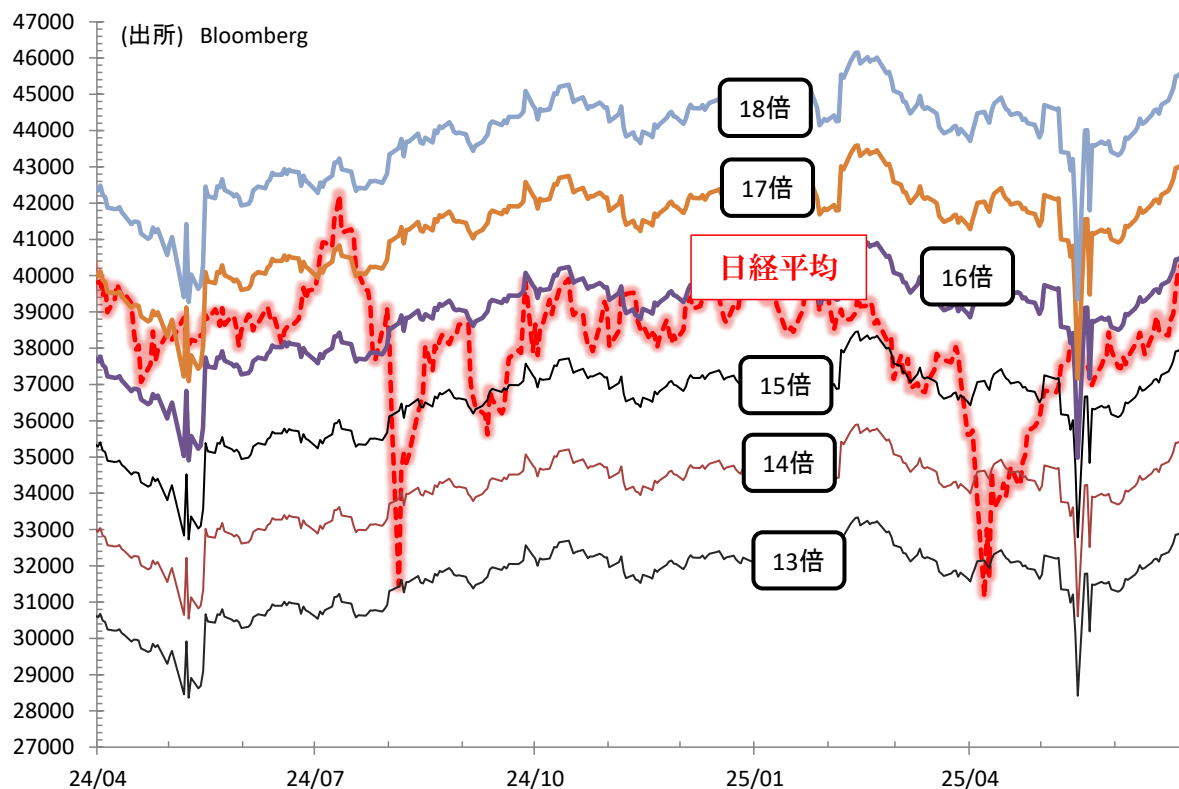
6月27日に4万円を回復し、その勢いのまま翌30日の上げ幅は一時600円を超えました。さすがに目先筋の利食い売りから上げ幅を縮めたものの、日経平均の上昇基調自体は継続するでしょう。

日経平均4万円より上の価格帯は出来高が少ない「真空地帯」であり、当面は売り方の踏み上げ、新規の先物買いなどにより、日経平均は大きく跳ねやすいと思われます。

[予想 PER 別の日経平均水準]

6 月 30 日の日経平均予想 PER は 15.95 倍・予想 EPS は 2538 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

6 月 30 日は一時 44,138 ドルと、4 カ月ぶり高値を更新しました。

(プリファード・カウント)

22 年 10 月安値(28,660 ドル)からの(B)波による上昇は今年 1 月高値(45,054 ドル)で終わり、以来、C 波による下落局面です。足元、C-(2)波が完了するかを見極める局面が続いています。今後は C-(3)波の下げにより、4 月安値(36,611 ドル)を大きく下回る展開が想定されます。

(オルタナティブ・カウント)

22 年 10 月安値(28,660 ドル)以来の五波構成による上昇(＝プライマリー級第⑤波)は、今年 4 月安値から最後の上昇(＝インターミディエイト級第(5)波)が進行中です。

通常、第(5)波は高値を更新するものですが、今回のケースでは、諸々の事情がそれを許さないかもしれません(ダウ輸送株平均や公共株平均など、先行して弱気相場入りの可能性が高い)。第(5)波が短縮される可能性に留意したいところです。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

足元で 2 月高値(6147)を上回り、最高値を更新しました。6 月 30 日には一時 6215 まで上昇しています。

(プリファード・カウント)

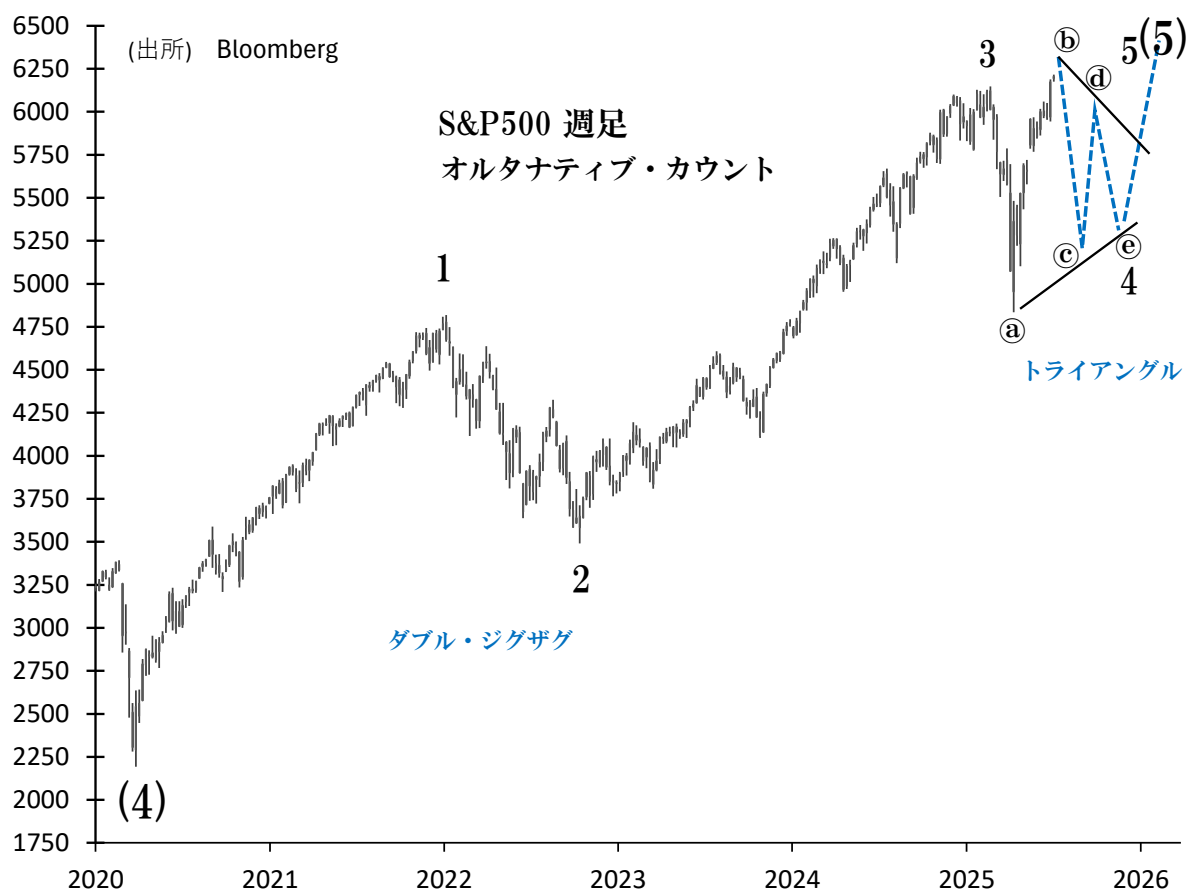
4 月安値(4835) からの上昇は、インターミディエイト級第 5 波に位置付けられ、それが終わると調整スタートとなります。それは 4 月安値を大きく下回るでしょう。

5767(5/23 安値)からの上昇パターンは「(拡大)エンディング・ダイアゴナル」と思われます。これは最終高値の接近と、その後の急反落の可能性を示しています。5943(6/23 安値)を割るとトレンドの下方転換が示唆され、指数は速やかに 5767 へ下落する可能性があります。

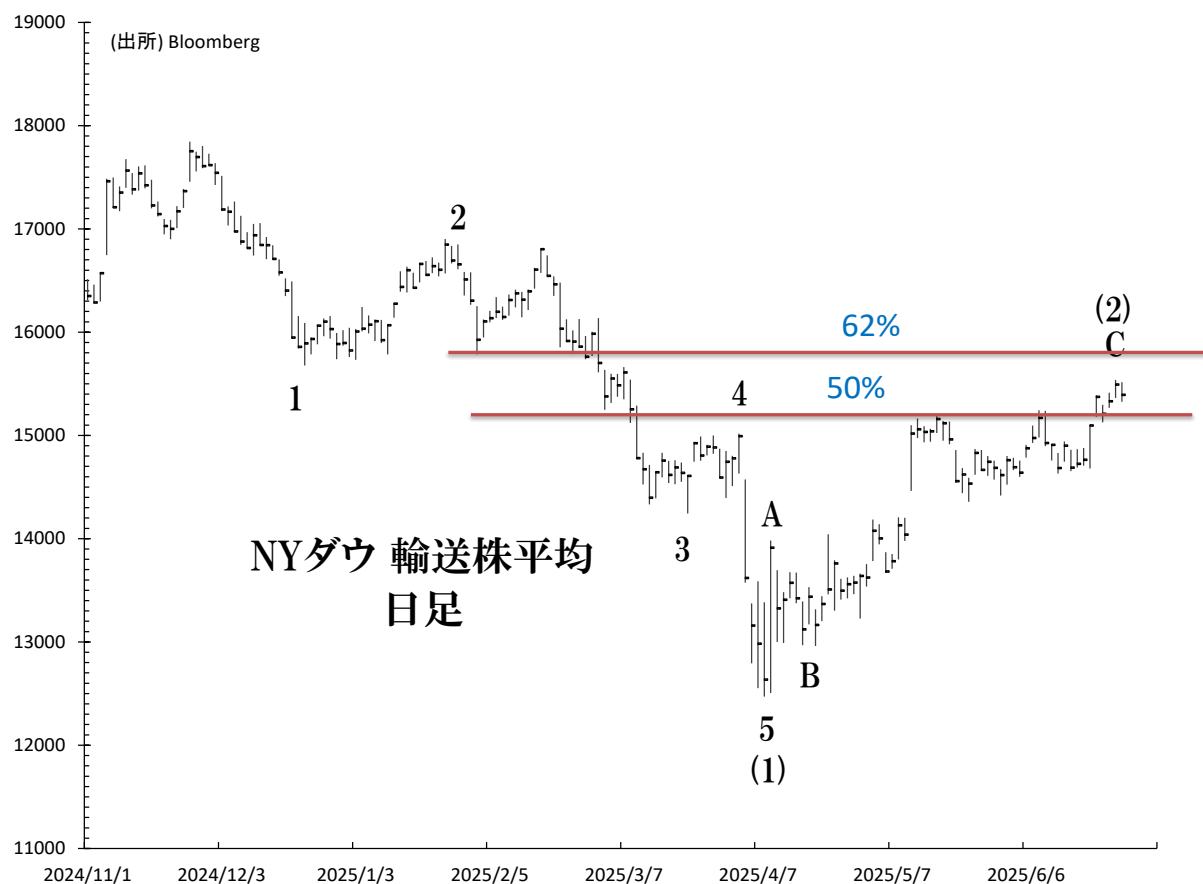
(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

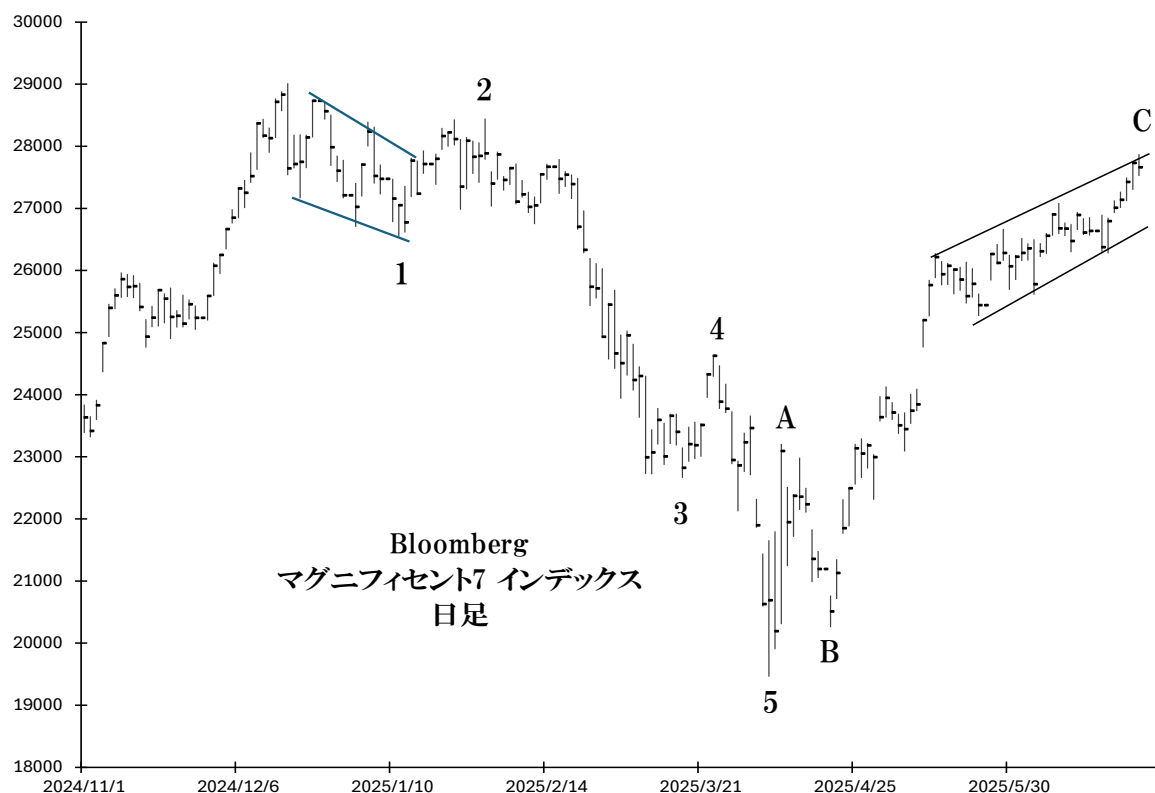
近々⑥波の下げがスタートするとみられ、それは②波(2 月～4 月)下げ幅に対し、62%～66%の大きさ(813～866 ポイント)になるでしょう。そうすると⑥波により S&P500 は 5400 を下回る展開になりそうです。



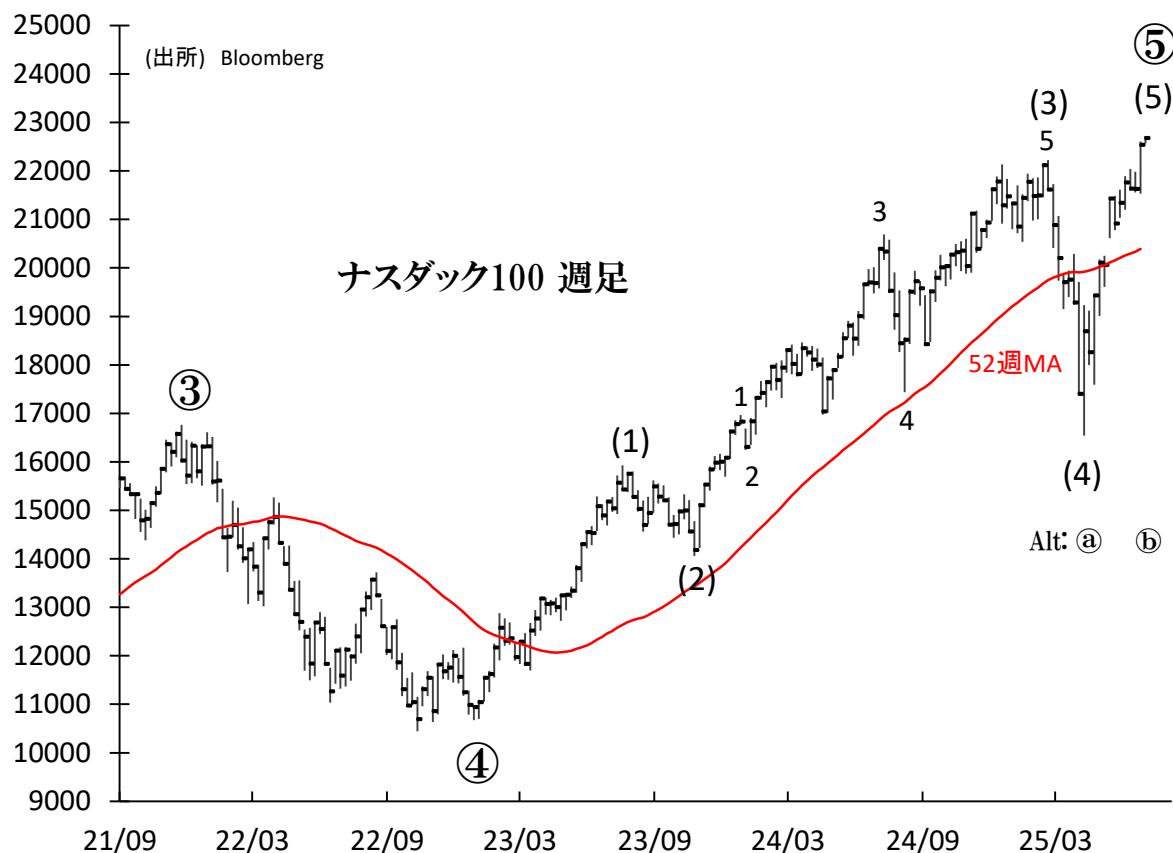
[ダウ輸送株平均] フィボナッチ比率の上値抵抗レンジ内でもみ合い



[マグニフィセント 7] エンディング・ダイアゴナル



ナスダック



【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

ナスダック 100 に続き、足元ナスダック総合指数も過去最高値を更新しました。この動きにより、二つの指数間の「未確認」は解消されました。

(プリファード・カウント)

ナスダック 100 は 4 月安値(16,542)から、第(5)波による上昇にあるとみられます。第(5)波の後には本格的な調整となり、それは 4 月安値を大きく下回るでしょう。

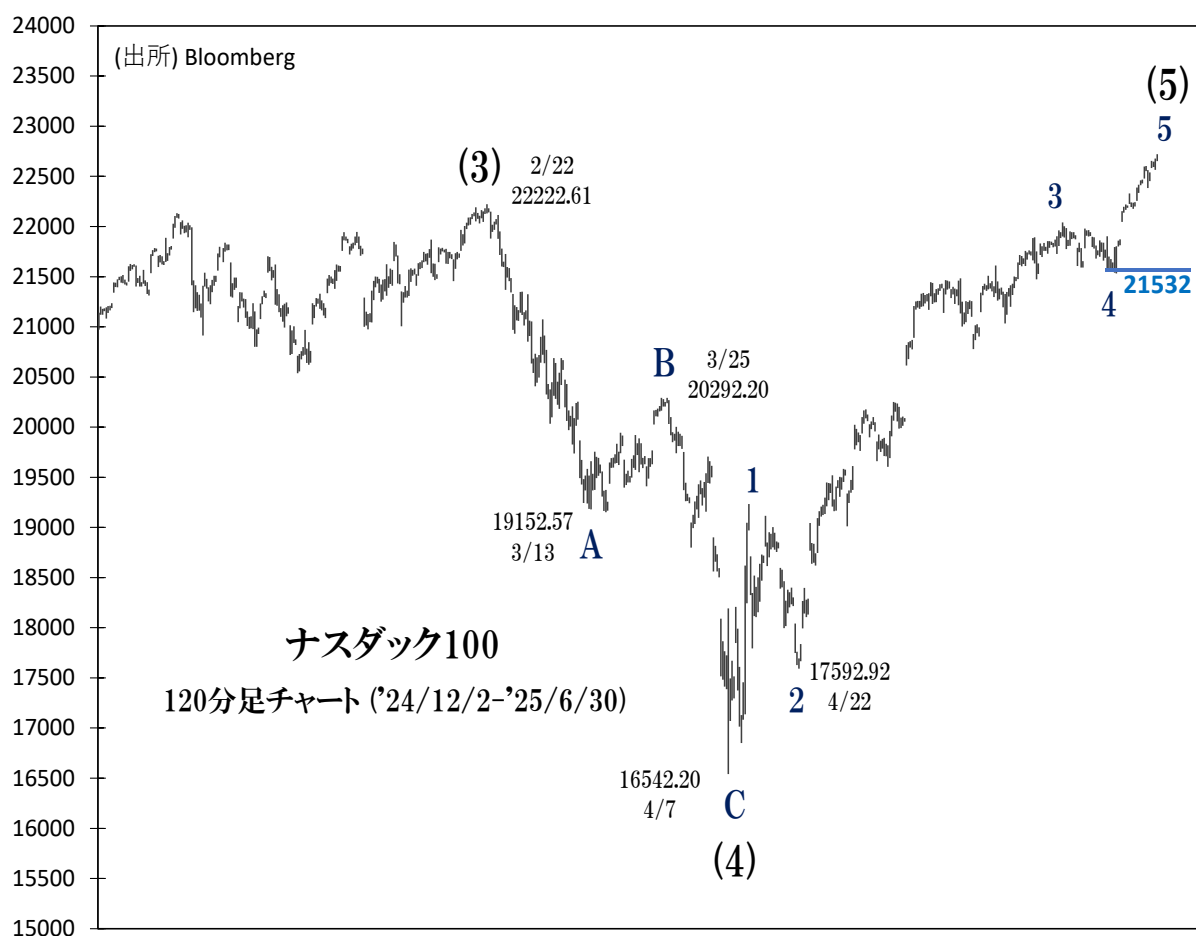
(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「トライアングル」中⑥波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様のものであり、遠からず③波の下落に入る見通しです。③波の下げ幅は②波のそれに対し 62%～66% となるが見込まれ、⑥波の高値から 3500～3750 ポイントの下げとなるでしょう。

米 10 年長期金利—18 年ぶり高値水準へ上昇する見通し

米 10 年長期金利は 23 年 10 月以来の強気トライアングルをほぼ完成し、近いうちに金利上昇トレンドが始まるとみられます。

この見方が正しければ、長期金利は今後数カ月内にも 5.0187%をブレイクし、18 年ぶりとなる高値水準を付けるでしょう。多くの人にとり金利の上昇は予期せざるリスクであり、株式相場に(ハイテク株を中心に)相応の打撃を与えるでしょう。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波、あるいは、第(4)波「トライアングル」中⑥波とみられます。

フィボナッチ比率からは、上値の想定レンジとして[23,195-24,224]が導かれます。現在の水準から 2%～7%の上昇余地があります。

一方 21,532 を下回ると最初の弱気トリガー発動となり、ナスダック 100 が重要な高値を付けたことが示唆されます。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①137.190 円(7 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせずに—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試すと思われます。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.560 円(7 月)です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からはC波によるドル安・円高トレンドが進行中です。このC波は(先ずは)三波構成(①-②-③)が想定され、158.825 円(1/10)から③波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年1月からのドル安・円高を、第3波による下落とみることもできます。現時点でサブシナリオですが、これによれば、先々1ドル=120 円試しが視野に入ります。第1波と第3波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625 円]という目標値が得られます。

ドル/円は当面、149 円台～151 円台を試す可能性があります。近いうちにドル指数が底入れして数カ月タームの上昇が始まるとすれば、ドル/円の大きな下げは後ずれし、しばらくはネックラインの上側で(円安気味に)推移する可能性が高そうです。

もっとも中長期でのドル安・円高基調に変わりはなく、ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ1ドル=120 円割れの可能性もみえています。



【日足 エリオット波動分析】

139.877 円(4/22)以来のマル ii 波によるリバウンドは、「ダブル・ジグザグ」(w)-(x)-(y)により継続中とみられます。ダブル・ジグザグの中間波・(x)波「トライアングル」は 142.740 円(6/13)で完成し、そこからは、ジグザグ(a-b-c)による(y)波の上昇に位置付けられます。

足元の円高は b 波であり、それは 142.740 円を下回ることなく終了し、まもなく(y)-c 波によるドル高円安が始まるでしょう。それは順当なら 148.610 円(5/12)を上回り、[149.351 円](1 月からのドル/円下落の半値戻り水準)を試す可能性があります。この近くには 200 日 MA(149.700 円)が控えます。さらに 200 日 MA を上回ると、(w)波と(y)波が等しく上がる水準[151.473 円]への道が開かれます。

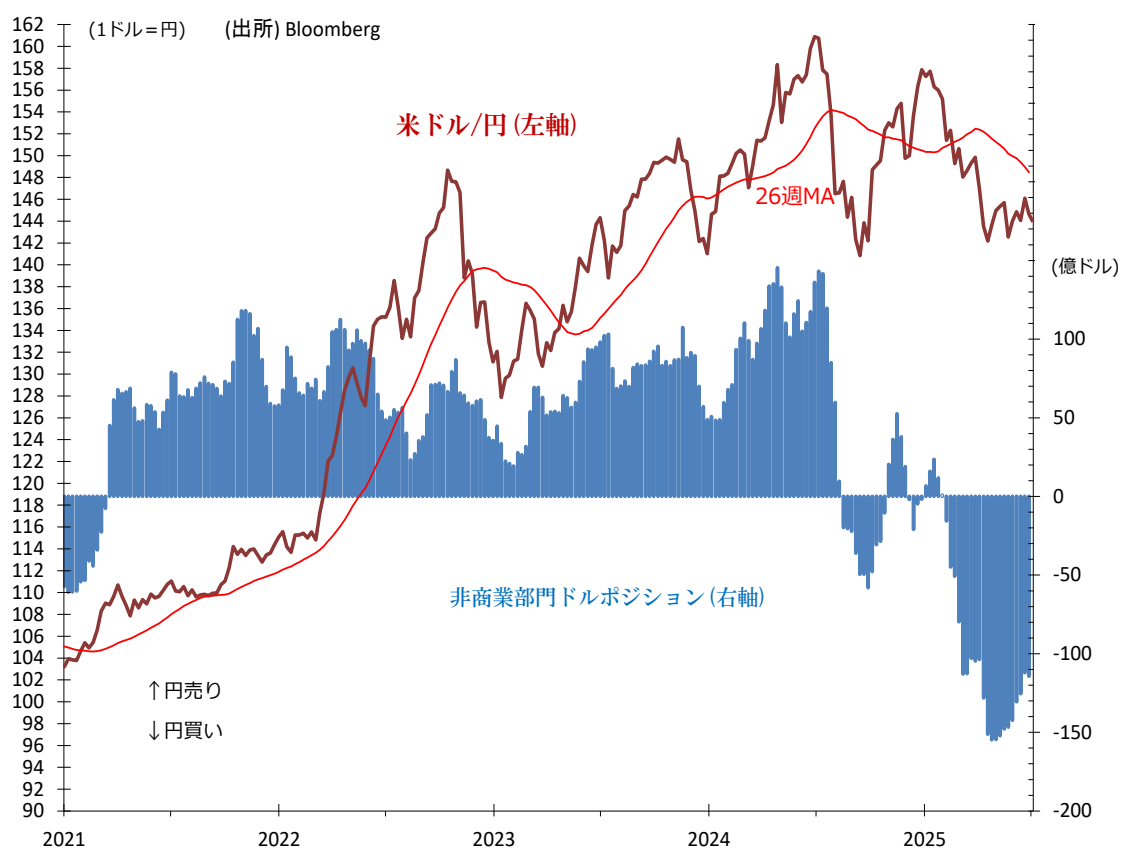
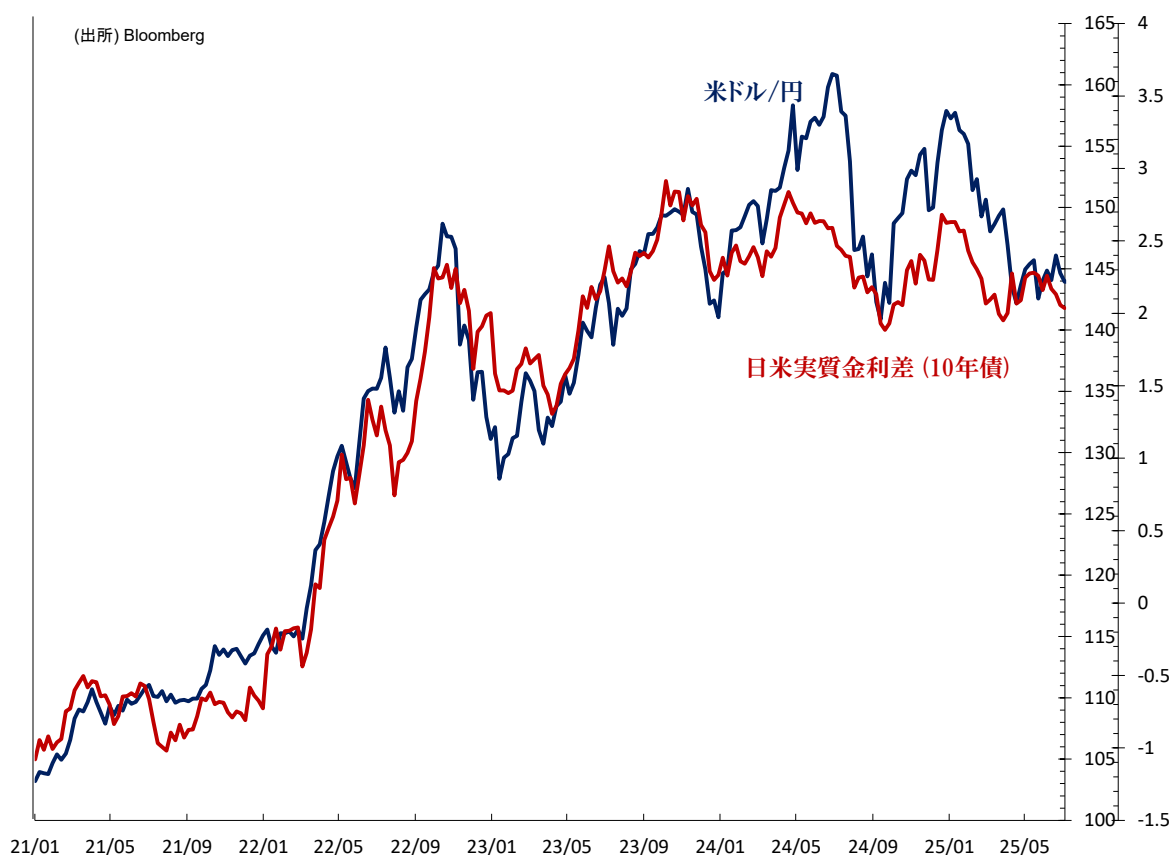
ただし 142.740 円を下回ると上記見通しはキャンセルされます。

金利差からのドル/円推計値

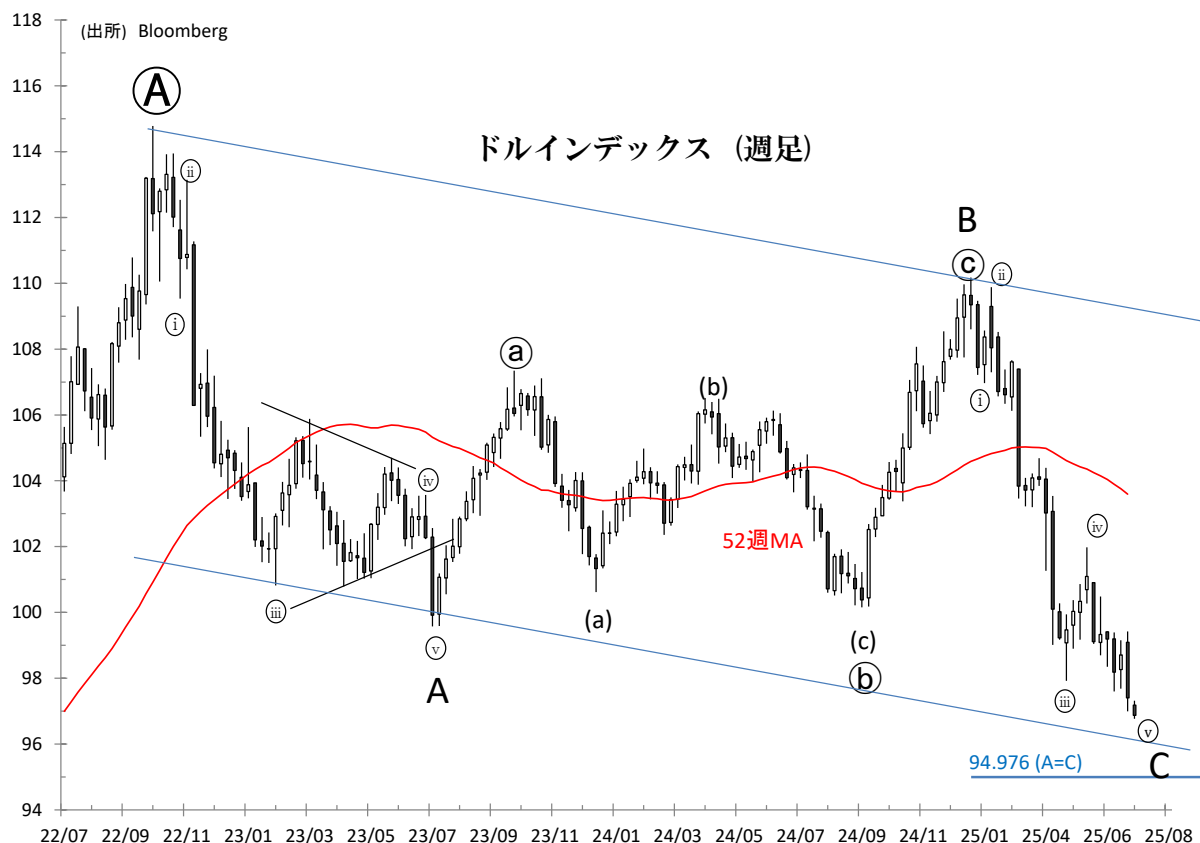
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[143.998 円]です。

投機筋の円買い持ち高が 8 週ぶりに拡大(2025 年 6 月 24 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 112.6 億ドルから 114.1 億ドルへ 8 週ぶりに拡大しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

1 月～6 月にドル指数は 10%超下落。日経新聞によると半年間の下落率としては、過去 40 年で 4 番目の大きさとなりました。筆者は年初から「99.578 を大きく下回るドル安」を想定してきました。しかし、現行のドル安は少なくとも当面の転機を迎えそうです。ドル指数は近々、底入れする可能性があります。

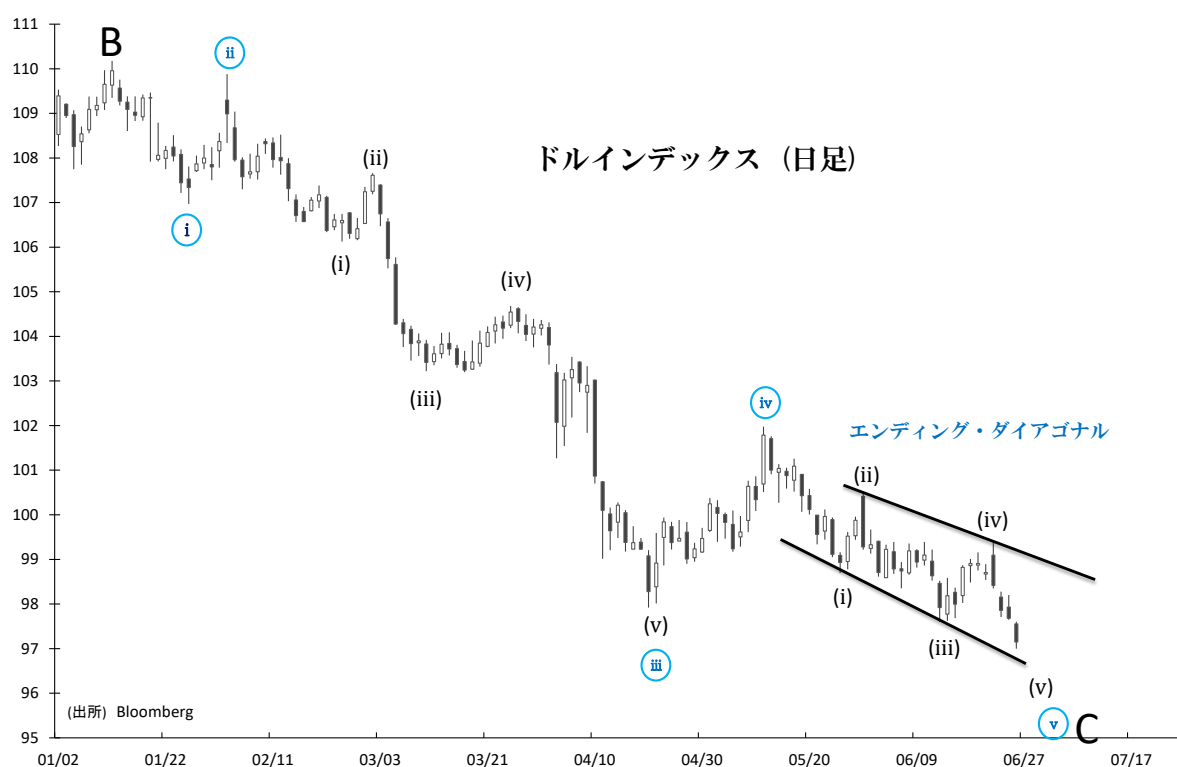
110.176(1/13 高値)から C 波によるドル安が進行中です。C 波の副次波(マル i～マル v 波)のうち、101.977(5/12 高値)からのドル安はマル v 波に相当します。マル v 波は「エンディング・ダイアゴナル」を形成しており、ドル安終了と急激なドル高が接近していることが示唆されています。

6 月 30 日には一時 96.768 と 3 年 6 カ月ぶりドル安水準を更新しました。

日足をみると、マル v 波の副次波は第(v)波まですべて揃っています。ドル安は最終局面にあると思われます。

ちなみに現行カウントにおける第(v)波の下限は 96.542 です。足元はこの水準に接近しており、ドル安は目先のにも終わるかもしれません。

一方 96.542 を一時的にも下回ると、マル v 波-第(iii)波が最短となるため、「ダイアゴナル」という見方は否定されます。この場合のドル下値目標は、94.976(A 波と C 波が等しく下がる水準)となります。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

- ・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。
- ・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。
- ・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
